

**1. 活動報告（事務局 記）**

—3月7日（日）14名の方が参加されました。寒い中、水の中、大変ご苦労さまでした。

①「エコアップ」： 止水池内のガマ草、抜き取り100%除去済。湿地帯スゲ・タテバチドメグサの間引き作業

②修復工事： 草原ゾーン川尻排水竹パイプ破損交換

—3月20日（土）12名の方が参加されました。

エコアップ： 湿地帯のスゲ間引き、タテバチドメグサ間引き

修復工事： 水車水路U字溝の取り付け6m分

**2. 今後の予定（事務局 記）**

◎ 見学者 予定はありません

◎ 行事

—3月25日（金）会計監査

—4月 3日（土）平成22年度総会

—4月17日（土）維持活動（特に修復工事とエコアップ）

**3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）**

今月はありませんでした。

**4. 会員の声 「ビオトープの小さな花」 （内藤 武顕 記）**

間もなく花見シーズンが到来する。常盤公園の桜は来月の4日～7日頃が満開らしい。

先日、市内で上映中の「花のあと」—原作 藤沢周平—を見た。移りゆく四季を背景にした、東北地方江戸時代の小さな藩の武家社会の物語りである。庄内平野の冬景色、磐梯公園の桜景色、ローケーションの出来映は出色であった。年一回開催される上級武士の娘のみ許される華やかな花見の宴、75才をして、鼻の下を長くする。現実はそれにしても味気ない。車地の夜桜見物は例年厚東川の辺で行われている。集うのは高令のなじみの顔、色気とは無縁の宴である。暗くなると未だ冷え込む川土手、それでも、何故か盃を交わす男たち。

—さまざまのこと思い出す桜かな— 芭蕉のこの句の中に解答があるかもしれない。

私がアマナの蕾を初めて見たのは3月7日エコアップが終わった帰路であった。会員の渡辺昭和さんと一緒だった。そっと誰かが寄ってこられた。会員の寺森正行さんでした。「アマナだよ」と言って、枯草の方に指をさされた。植物に鈍感な私はしばらく雑草を眺めることになる。野生の草むらの中、くぐもったかたちで群生している5センチ位の可憐なアマナの蕾を見つけた。「この蕾は春3月、日中、日が当たっている時だけ咲き、その日の中に散ってしまう」でした。

3月17日の夕方、アマナが群生する傾斜面をたずねた。蕾は10あった。19日の午後2時また寄ってみた。好天気だったので開花を期待する。咲いていた。暗紫色の筋のある6弁の小さな白花が5輪咲いていた。しかし少ないと思って直ぐ草むらを何度も探してみると2輪アマナの花弁が散っていた。

「花のあと」の映画で、枝が見えないほど溢れるように咲いた満開の桜の残像があっただけに花弁を手にし侘びしさを感じた。この貴重なアマナを十分慈しみたいと思った。球根は食べてはならない！

一句 —アマナだよ指差す先の蕾かな—

## 5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) ( 管 哲郎 記)

### (22) ニホンカワトンボ (*Mnaisu costalis* Selys)

カワトンボの中でも最もポピュラーなトンボで平地や山間の比較的明るい溪流に生息しています。以前は「オオカワトンボ」や「ヒガシカワトンボ」と分けて呼んでいました。

4月上旬より出現し梅雨ごろに姿を消しますが5月ごろに多く見られます。同時期にそっくりな姿をしたアサヒナカワトンボ (旧ニシカワトンボ) が見られますので間違われやすいトンボです。アサヒナカワトンボはおもに溪流部ややや暗い細流部を好みます、開放的な清流に遊ぶトンボはニホンカワトンボとみてよいかもしれません。いずれにしても同定の難しいカワトンボです。ヤゴのほうが確実です。

清流に遊んでいる美しい羽はみごとです、一度手にとってご覧下さい。(下図の写真参照)



溪流に止まるニホンカワトンボの♂  
(橙色翅型)



アザミの葉に止まるニホンカワトンボの♀  
(淡橙色翅型) \*一般には透明翅型が多い



♀を捕らえ連結しようとする♂ (左が♂)



岩陰で羽化するニホンカワトンボの♀

\*カワトンボの羽化や羽化殻を探すのは大変難しく、筆者は羽化殻探しに3年、羽化撮影に5年かかりました。一度探してしまえば羽化時刻や場所の見当がつきますので、あとは比較的簡単に見つかると思います。

(お詫び) 会報103号のビオトープのトンボたち「(20) ムスジイトトンボ」は、「(21) ムスジイトトンボ」が正解です。

## 6. 会よりの連絡事項（事務局より）

総会に向かい新規始める“会員の会員による観察会”の食野草、野鳥、春秋の昆虫、水棲動物、樹木、木の実、キノコ等々計画中です。

観察会の参加もさることながら、講師として名乗り上げさせていただきたく思います。

又総会の時、各観察会の運営も含めて計画しますので考慮していただきたくお知らせします。

## 7. 編集後記

現在、我が家の都合で第1日曜の活動のみ参加させて頂いてますが、5月に二人目を出産予定のため、できれば3カ月くらい活動をお休みさせていただき、また復帰したいと思います。育児中の今、第1日曜のこの活動日が、私にとって唯一の「一日中自由にしているよ」と言われている日なので、ビオトープに来ることが、とても良いリフレッシュになっています。さて、復帰する時は、二人目は主人にみてもらい、まだ2歳にはならないけど、一人目は一緒にビオトープに来れるくらいになっているかな？それとも小野田の実家の父母に遊んでもらって、もうしばらくは私だけビオトープで楽しませてもらおうか、などと思いをめぐらしています。子ども達も早くビオトープでいろいろな生きものに会えるようになればいいなと楽しみにしています。

（大野 靖子 記）

大変ご無沙汰しております。益田です。

今年度は参加できると思っていたのですが、都合が付かず申し訳ございません。

来年度はと思うのですが・・・

来年度といえば、自然観察隊で皆さんにお世話になった長女は4月から高校生になります。その時は大変お世話になり、ありがとうございました。

自然観察隊で学んだことのすばらしさを忘れずいつか、自分が母親になって、「里山ビオトープ二俣瀬」に子ども達を連れて行ってほしいと思います。

しかし、時の経つのは早いですね。この前、連れて行ったと思うんですが・・・

（益田 真一 記）